
異世界の思念使い

シラッチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界の思念使い

【Nコード】

N1152Y

【作者名】

シラッチ

【あらすじ】

異世界に転生出来る能力を持つ男、じんぐうみや神宮寺恭二は三回目の転生に成功する。
だが、暫くして彼は新たに転生した世界での自分の異変に気付いていく

プロローグ 1 異世界に転生出来る能力を持つ男

「コイツより強い奴はもうこの世界にはいないか」

人間の形をした灰を見ながら神宮寺恭二はつまらなさそうに呟く。彼は今、魔王と呼ばれていた人物の居城に単独で突撃し、それを消し炭にした所である。この世界で英雄となった神宮寺だが彼は元々はこの世界の住民ではなく、転生してやって来た人物である。

それも、ただの転生者ではない。自分を何時でも異世界に飛ばせる能力を持っている。しかも、飛ばす回数に制限は無いという優れものだ。

因みにこの世界には二回目の転生で神宮寺はやってきたが、ここまで来るのに苦戦は一度も強いられなかった。

何故ならば、前回の転生で受け継いだ経験や能力をそのままにして転生したからである。力を初期値に戻して転生する事も可能だが、神宮寺は前回の転生で苦戦ばかり強いられた経験があったから今回は無双したかったのだらう。

2

「この世界も飽きたな。次の異世界へ飛ぶとしようか」

着用している最強の鎧『黒龍の鱗』を神宮寺は指先で撫でる。この世界で神宮寺は黒龍と呼ばれる悪龍の力を使う『黒龍の民』の中でも特別な存在として転生している。

勿論彼は前回の転生での力も使えるが、『黒龍の民』としての力の方が強力かつ使い勝手が良いのでそれはお払い箱になってしまっている。

「次回の転生先でも力はこのままでいいか。そもそもって今度は俺が元々過ごしていた現代に近い異世界に行こう」

自身を異世界に飛ばす方法は簡単である。

頭の中でまずどんな異世界かを頭の中でイメージする。神宮寺は今回、『能力を使う人間がいるのが当たり前で、自分が転生能力を身に付ける前に過ごしていた日本に近い世界』を思い浮かべる。そして、この台詞を言うだけで、転生は発動する。

「神よ、俺を望んだ世界へ飛ばせ」

次の瞬間、神宮寺の体は光の粒子となった後、この世界から完全に消滅した。

「ここは……どこだ？」

転生された人間は大体はこんな感じの台詞を言うと思うが、神宮寺の場合は勝手が違う。

神宮寺がやる転生は自分の身分や生いたち、異世界の世界観等といった情報が転生した瞬間インプットされるのだが、今回は何の情報も脳内に入っていない。

「チツ。何らかの誤差が出たか？ まあいい。早くこの殺風景で汚ならしい場所から出てそこら辺にいる奴を捕まえて情報を聞き出せばいいだけの事だ」

周りがつつすらと見えるくらいの薄暗さで中々の広さである空間だった事を確認した神宮寺は舌打ちをした後、とりあえず出口を求めて歩き出す。

数歩進んだ所で神宮寺はある事に気付いた。

「『黒龍の鎧』が無いだど？」

妙に体が軽くて妙だとは思っていたが、自分の体を見ていると来ているのは白いカッターシャツに黒いズボン。まるで学生服の夏服

のようだった。

「まるで俺が来た事を歓迎してないような世界だな」

忌々しげにこの世界に来てから二度目の舌打ちをし、『黒龍の鎧』を呼び出して装着しようとした所で。

「お前……我等が『レジスタンス』のアジトに入り込んでおいて随分と余裕じゃないか」

背後から突然声を掛けられた。

神宮寺は気だるげに首だけを横に向けて状況を確認する。そこには、フードを被った五人の人間が立っていた。

「何の用件だ。道案内なら歓迎だがな」

「そんな口を叩ける状況だと思っか？」

「へえ。ひよつとして俺と戦うつもりか？」

「無論。『魔族』と協定を結び、人間社会を脅かしている政府の犬がどんな裁きを受けるべきか身を以て知るがいい サバイバー・アクア！」

フードを被った男の手から長さ一メートル程の水の奔流が出現する。

ここでようやく神宮寺はフードの男と向き合うが、その顔に焦りは無い。寧ろこの状況を楽しんでいるのか、不敵な笑みまで浮かべている。

「おおおおおッ！！」

「くだらないな」

此方に駆けてくるフードの男へと右手を向けながら神宮寺は笑う。

「『黒龍の息吹』」

神宮寺が突き出した右手から黒い霧が勢い良く大量に吹き出す。

「何だこれは……ッ!？」

それはフードの男を吹き飛ばすだけでなく、後ろに控えていた四人ごと向かい側の壁もろとも消し飛ばしてしまった。

「おや？ この程度の威力では無かったはずだが」

「私には十分威力あるように見えたけど」

今日は良く背後から声が掛けられる日だな、と溜め息を吐きながら神宮寺は振り替える。

「『レジスタンス』のアジトがあるって聞いてここに来ただけれど……貴方のせいで私の仕事無くなってしまったわ」

「誰だよお前」

「えっ」

艶のある黒髪をポニーテールにした高校生くらいの女は一瞬、驚いた顔をしたが直ぐにそれは呆れた、相手を少し小馬鹿にした表情に変わった。

「貴方、私と同じ学校の生徒なのに知らないの？ 私を」

プロローグ 1 異世界に転生出来る能力を持つ男(後書き)

語彙力とか文章力が低くて申し訳ないです。

色々急展開ですが、徐々に設定や世界観を出していく予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1152y/>

異世界の思念使い

2011年11月1日03時12分発行